

「野村CRF(キャッシュ・リザーブ・ファンド)」 2016年4月28日～5月30日の利回り推移について

謹啓 時下益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。また、平素は弊社の投資信託に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。弊社運用の投資信託「野村CRF(キャッシュ・リザーブ・ファンド)」(以下、当ファンド)の運用状況についてご案内いたします。

当ファンドが主な投資対象としている国内短期金融市場は、投資収益の獲得が困難な環境となっており、2016年4月28日～5月30日の期間における1万口当たりの分配額累計額※1は0円となっております(同期間における年換算利回り 0.0000%)。

※1 分配金がある場合、毎月の最終営業日に1ヵ月分(前月最終営業日から当月最終営業日前日までの分、課税後)が再投資されます。

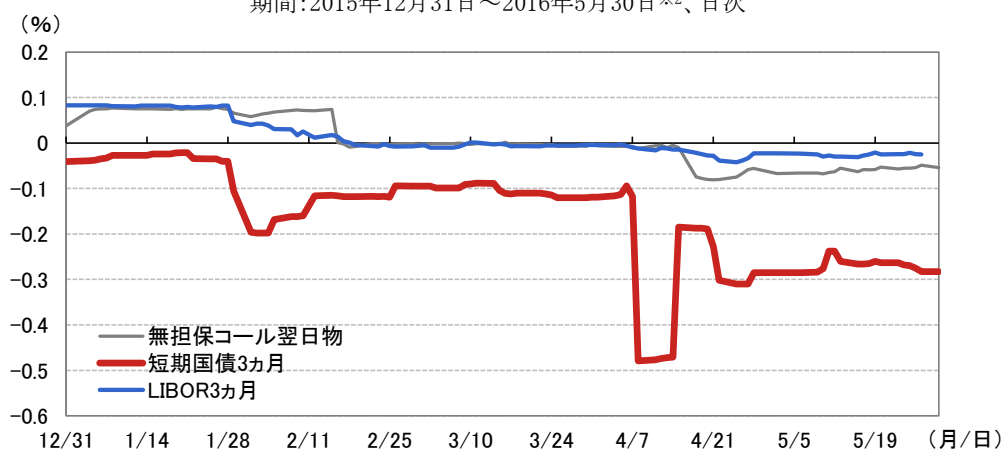
【投資環境および投資方針について】

国内短期金融市場における利回りは、2016年1月29日に日本銀行が「マイナス金利付き量的・質的金融緩和」の導入発表以降、低下傾向にあります。日本銀行の発表を受けて、短期国債3カ月の利回りはマイナス幅を拡大するとともにLIBOR(ライボ)3か月や無担保コール翌日物はゼロ%近傍まで低下、4月に入ると短期国債3カ月はマイナス幅を更に深めるとともに、LIBOR3か月や無担保コール翌日物についてもマイナス金利が定着しました。

厳しい投資環境ではありますが、短期金融市場の動向に注視しながら、元本の安全性の確保に配慮した運用に努めて参ります。

《国内短期金融市場の主要利回りの推移》

期間:2015年12月31日～2016年5月30日※2、日次



※2 LIBOR3カ月は2016年5月27日まで。

無担保コール翌日物:コール市場(金融機関同士が資金繰りを調整する市場)で無担保で短期資金を借り、翌日には返済する取引。

短期国債3か月:ブルームバーグジェネリック

LIBOR3か月:London Inter-Bank Offered Rateの略で、ロンドン市場において銀行間で取引される資金取引の金利。

(出所)ブルームバーグのデータに基づき野村アセットマネジメント作成

当ファンドにおきましては、このような投資環境に鑑み、信託期間を2016年6月30日までとする約款変更ならびに円滑な償還金の支払いを意図した信託報酬の総額に関する約款変更を行ないます。

何卒ご理解を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。